

いっぺいといっぱく Vol.52



市長は長久手をどんなまちにしたいか、そのために何に取り組もうとしているのか。その想いを市長の語り口でお伝えします。みなさんと語り合うように、一緒に未来の長久手のことを考えてみましょう。また、市HP【によぜがもん】もぜひご覧ください。
[市HPのトップページから「によぜがもん」をクリック。]



「共生」のためのキーワード

私たちは、大人になってからは、高校や大学、会社といった同じ価値観、同じような能力の人達の中で、多くの時間を過ごすことが多いように思います。そこでは、同じような人たちを集めるために、試験があることもあります。

一方、地域に住むためには、試験はありません。そのため、地域には、物事をきっちりと進めたい人、大雑把でも気に入らない人、せっかちな人、ゆっくりな人等、実に様々な価値観、能力を持つ人が暮らしています。

異なる価値観、能力を持つ人達が、同じ地域の一員として一緒に暮らしていくためには、多様性を受け入れられる「大らかさ」が必要ではないでしょうか。

以前に私がいた介護の現場で、こんなことがありました。

介護施設の部屋の両端から、A、B、2人の職員がおむつ交換を始めました。A職員はおむつ交換が上手で、交換時間も早い。一方のB職員は、おむつ交換に時間がかかる上に、交換が不慣れで漏れてしまいます。

私が責任者として、B職員が対応した利用者さんに、「おむつ、漏れちゃったね。ごめんなさいね」と謝ったところ、「Aさんより、Bさんが良い」と言います。私が「Aさんの方が、きれいにおむつを換えてくれるし、早いし、良いでしょ?」と聞くと、「Bさんは、下手だけど、私の話をちゃんと聞いてくれる」と言うのです。

責任者からすれば、短時間に、より大人数のおむつ交換ができるA職員が「良い職員」です。でも、利用者さんからすれば、おむつ交換が下手でも、自分に向き合ってくれるB職員が「良い職員」です。どちらが良いかは、受け手によって異なり、どちらか一方が正解ではありません。

「早くやる」「きちんとやる」ことは、人口が増加していた、これまでの日本で求められてきたことです。人口が減っていく、これからの日本では、「ゆっくり」「だいたい」といったキーワードが必要な時代になるかもしれません。「ゆっくり」「だいたい」といった大らかさこそが、多様な人々が暮らす地域で、「共に生きる」「共生」のためには、必要なことだと私は思っています。

来年10月、本市において、この「地域共生」をテーマにした全国サミットを開催します。全国から多くの方が集まり、話し合いや事例発表が行われる予定です。

来年の開催に向け、「地域で共に生きる」「共生」とはどういうことか、みなさんと一緒に考え、取り組んでいきたいのです。



今年度の開催地である宮城県岩沼市長から、次期開催地に引き継がれる「転ばぬ先の杖」を受け取りました



ご近所で「いつもと違う」と気づいたときはお電話ください

長久手市地域見守り安心ほっとライン

0561-63-5556

24時間
365日受付



表紙の写真もう一枚

木のおもちゃづくりを体験する「木木(もくもく)☆おもちゃファクトリー」が行われました。本市の友好都市である長野県南木曾町の「ウディ・クリエイト・ナギソ」が木材を提供。参加した親子は、好きな木片を選んで思い思いの作品を作りました。

